救世軍公報

GOOD NEWS

ときのこえ

War Cry

7月号
福音版
2021
July
No.2820

二〇二一年　七月一日　発行

明治二十八年創刊　福音版・毎月一日発行　広報版・奇数月十五日発行（除く七月）

創立者　ウイリアム・ブース
大将　ブライアン・ペドル（万国本営　英国ロンドン）
日本司令官　スティーブン・モーリス（救世軍本営　東京都千代田区）

魂の救いのために―昔も今も将来も

西村　保

七月二日、救世軍が創立百五十六周年を迎える。

一八六〇年代、救世軍の創立者ウイリアム・ブースは、ある夜、東ロンドンのはずれの居酒屋の前を通る。人々の様子をつぶさに目撃し、その夜、妻カサリンに言った。

「……今夜という今夜、わたしは今、初めて自分の一生の運命を発見した。…キラキラと輝く光のもとで燃えるような強い飲料に身を焼く人々の群がる居酒屋の前を通ったとき、わたしはたちまち一種の天来の声を聞いた。『どこにこんな神を知らない人々がいようか。どこにこのように神を離れた異教徒を見いだすことができようか。彼らを救うにまさって急を要することが、ほかにあろうか』。」（『救世軍のルーツ探訪』より）

そしてウイリアム・ブースは、人々の必要に心を注ぎ、特に社会から疎外された貧しい人々に眼差しを向けて、「スープ、ソープ、サルベーション」という三つのSに表される、「食べ物の必要な人には食物を、住む家のない人には清潔な家や仕事を提供し、その上で魂の救いのため聖書のメッセージ」を伝えたのである。この頃（一八六五年）の東ロンドンのスラムにはコレラが流行し始めて、住民の生活には「無気味な死の手」が迫っていた。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界で三百万を超える人々が死亡し、日本国内でも七十三万を超える人々が感染、一万二千人を超える人々が命を失っている。（二〇二一年五月下旬現在）仕事を失い、家を失い、食べ物がない状態は、形は違うかもしれないが、一八六五年のロンドンと同じような状況が起こっていると言っても過言ではないのではないか。

このような状況下で、ICT技術が発展し、携帯電話や、オンラインでの会議を開くシステム等が盛んに用いられるようになった。緊急事態宣言が出されても、在宅ワークが求められ、在宅でのオンライン授業がおこなわれるなど、不十分ながら対策が練られている。新型コロナウイルス感染症で様々なものが寸断されているが、それを繋ぐ技術が発達してきている。

しかし、どんなに技術が発達しても、神様と人間を繋ぐ技術を見つけることはできない。わたしたち人間には、衣食住と共に魂の問題があり、神様を認めず、自分勝手に生きる「的外れ」な状態、つまり「罪」がある。イエス・キリストは、わたしたちのこの「罪」のために、身代わりとなって十字架にかかって死んでくださった。神様と人の断絶状態が、イエス・キリストという懸け橋によって繋がり、解決されたのである。

しかし、多くの人々はこの「救い」を知らずに生きている。

「……キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」（コリントの信徒への手紙二　5章17、18節）

救世軍が創立した時にも、今も、苦しみはあり、将来も苦しみはあるのではないか。聖書には「あなたがたには世で苦難がある」（ヨハネによる福音書16章33節）と示されている。しかし、どのような状況下にも、救世軍は、神様と人を繋ぐ働き―和解の働きをゆだねられている。この務めを果たすため、小隊（教会にあたる）の働きを通し、コミュニティーの働きを通し、病院、社会福祉施設の働きを通して、「スープ、ソープ、サルベーション」をおこない、人々に寄り添い続けるのである。

救世軍のドアはすべての人に開かれています。一度お訪ねください。

（救世軍士官〔伝道者〕）

写真は、ロンドン・イーストエンドに立つ救世軍創立者ウイリアム・ブースの像

WINDOWS on the ARMY WORLD　世界をみつめて

〈全世界〉新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下での支援

●インド

インドでは変異株により新規感染者が一日数十万に及ぶ感染爆発が起きています。マハシュトラ州の救世軍エバンゼリン・ブース病院では、コロナ患者に無料の治療を提供しています。

アーンドラプラデーシュ州の救世軍エバンゼリン・ブース病院では、救急車のサービスを開始し、患者を搬送しています。グジャラート州の救世軍エメリー病院、タミル・ナードゥ州ナガルコイルの救世軍カサリン・ブース病院、パンジャブ州の救世軍マクロバート病院などでも、コロナへの対応をおこなっています。

●ガーナ

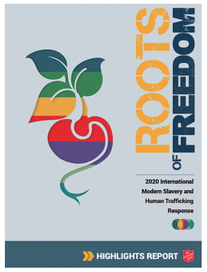
救世軍アーバンエイド診療所は、地域の保健機関と協力して住民へのコロナワクチン接種を開始しました。医療従事者、学校の教員、重症化リスクの高い病気をもつ人、社会的に脆弱な人から優先的に接種をおこなっています。

（写真上より）
- インド　コロナ感染者に対して、治療・搬送サービスがなされている。
- ガーナ　コロナワクチン接種を開始

〈全世界〉

●現代の奴隷制と人身取引への取り組み

米国ニューヨークの救世軍国際社会正義委員会（ISJC）は、現代の奴隷制と人身取引に関する報告書「自由の根（Roots of Freedom）」を発行しました。世界で数百万人の男女と児童が現代奴隷制と人身取引の犠牲者となっていることを統計資料で示し、被害者の救出と回復のための支援策について提言しています。昨年から今年にかけて救世軍は86の国と地域に人身取引対策担当者を任命し、行動計画を策定して、人身取引の根絶に向けた取り組みを進めようとしています。報告書はsar.my/rootsoffreedomからダウンロードできます。



●救世軍のオンライン学習コース

世界の救世軍で働く人々が、専門分野の理解とスキルを高め、効果的な仕事ができるよう支援するオンライン学習プロジェクト「ラーニング・パスウェイ」がスタートしました。カナダの救世軍ブース大学との提携で進められ、地域開発プロジェクトの調査・立案・実施・管理運営についての学びを提供し、修了者にはディプロマ（修了証）が授与されます。教材は英語、フランス語、ヒンディー語、ミゾ語、ポルトガル語、ルーマニア語、ロシア語、スペイン語、スワヒリ語、タミル語で提供され、救世軍の士官（伝道者）・職員・ボランティア・兵士（信徒）は、受講することができます。

救世軍とは？ What is The Salvation Army?

心は神に　手は人に　Heart to God, Hand to Man

救世軍は、英国ロンドンに国際本部を置く、世界132の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースによって始められ、当時の社会の底辺で顧みられず困難の中にあった人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました（1面メッセージ参照）。

日本では1895（明治28）年に活動が始まり、小隊（教会にあたる）での伝道とともに、廃娼運動、失業者対策、病院の設立、児童や女性の保護、アルコール依存症者回復支援など、現代につながる福祉や医療の働きに取り組んできました。現在の新型コロナウイルス感染症の影響下においても、小隊、社会福祉施設、病院は、感染予防策に最大限努力し、活動しています。

日本人で最初に救世軍士官（伝道者）となったのは、山室軍平。わかりやすい言葉を選んだ説教や聖書解説を貫き、同時に、政治・経済界の要人の救いのためにも祈り、交流を重ねました。今年ドラマ化され注目されている渋沢栄一は、救世軍創立者の来日歓迎会や、救世軍の病院建設の発起人を務め、救世軍を応援してくださいました。渋沢の最晩年に、山室が渋沢の自宅で聖書講義をした記録も残っています。

救世軍公報　ときのこえ
発行日　福音版／毎月1日、広報版／奇数月15日（除く7月）
定　価　福音版／1部40円、広報版／1部100円
（税込）　クリスマス特集号（12月1日号）／1部100円
振　替　00180－5－4400
発行兼　救世軍
印刷人　代表者　スティーブン・モーリス
編集人　山谷　真
発行所　救世軍本営　https://www.salvationarmy.or.jp
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話　03-3237-0881（代表）
Mail　jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所　ピーアンドエス
@SArmyJP　SArmy_JP　救世軍 The Salvation Army

聖書は新共同訳を使用しています　©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会　救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営（左記）、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
□ 私の近くの救世軍を紹介してください。　□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。　□ 相談を希望します。

牧師・アスリート
岡本依子（おかもとよりこ）さん

＜プロフィール＞
1971年大阪生まれ。大学時代、交換留学先のアメリカでテコンドーと出合う。2000年シドニー五輪で銅メダル獲得。2004年アテネ五輪出場。2006年12月24日イエス様を信じクリスチャンとなる。2008年北京五輪を最後に現役引退。JTJ宣教神学校に学び、2012年伝道師となる。2011年には大阪・天満に「岡本依子ドリームテコンドースクール」を開校、同じ建物で礼拝を始める。2018年4月17日、牧師按手礼を受け、現在に至る。東京五輪ではテコンドー・エキシビジョンマッチのコーチ、および選手村の宗教エリアで奉仕する予定。

シドニーオリンピックでの岡本依子さんのメダル獲得で、日本でのテコンドーの知名度は飛躍的にアップしました。現役引退後、テコンドーの普及と後進の育成に尽力するとともに、現在は牧師となられた岡本さんにこれまでの歩みをお聞きしました。

夢を見つけに行った留学先で I can do it! の言葉に魅かれて

出身は大阪の大東市です。

中学、高校と進学コースにいて、運動の部活が禁止だったので、近所の空手道場に中学一年から通い始めました。高校一年の時に正道会館（空手団体）に入り、練習がない時も自主練に行って、週六回通っていました。大学受験の時に受験勉強に専念するために空手はやめ、好きなスポーツに関連した勉強を、ということで早稲田大学の人間科学部スポーツ科学科に入りました。当時は新設の学科でした。

入学後いろいろなスポーツにトライしましたが、大学三年生の時に交換留学でアメリカのオレゴン大学に行き、そこでテコンドーに出合いました。その時私は二十歳で、夢もなく、自分には何の才能もないと思っていました。アメリカに行ったのも夢を見つけに行ったのです。ある日テコンドーの道場に行ったら、「人間には無限の可能性がある。I can do it（自分はできる）と信じるなら、you can do it!（あなたはできる）」と聞きました。がんばったら、一生懸命やれば、必ず昨日よりも今日、今日よりは明日、可能性や才能が開花すると。それを聞いて、ああそうか、自分のやりたいことを「できる」と思ってがんばれば、必ずできるんだと思えた時に、とても気分がすっとしました。道場には若い人からお年寄りの方までいて、どの年代の人も「I can do it!」と言って練習をしていました。その雰囲気がとても楽しく、テコンドーという競技自体も楽しかったので、私はテコンドーの先生になる、そしてこういう道場を日本でもつくろうと決心したのです。そして、先生になるのだったら実績があったほうが良いと思い、自分が世界チャンピオンになろう、という夢をもって、一生懸命取り組み始めました。それがアスリートになったきっかけです。大学卒業後は、テコンドーの本場韓国へ行ってトレーニングを続けました。

全日本選手権で優勝し、九八年のアジア大会では銅メダルを取りました。そのアジア大会では空港に帰って来ても普通に解散でしたし、近所の人が喜んでくれたぐらいでしたが、オリンピックは違いました。シドニーオリンピックで銅メダルを取って日本に帰って来た時、空港に大勢の人が出迎えてくださり、すごい騒ぎでした。テレビに出たり、首相官邸に行ったり、文部科学省に行ったり、挨拶回りなども忙しかったです。渋谷に服を買いに行ったとき、そこの店員さんが私がメダルを取ったことを知っていて、不思議な気持ちでした。自分の知らない相手が、自分のことを知っていてくれるという、それは不思議な体験でした。

シドニー五輪で銅メダルを獲得、一躍時の人になった

何のためにがんばるのか。葛藤と空しさを感じる中で、イエス様に出会った

オリンピックでメダルを取った後、やはり世界チャンピオンへの夢があったので、I can do it の思いで現役復帰しました。アテネへ挑戦したけれど、その時はあまり調子も良くなくて結果は出ませんでした。もう一回やってみようと三回目のオリンピックを目指して続けていましたが、どうしても、もう自分は三十五歳で、世界では若い強い選手がどんどん出てくる状況の中で、〈自分はできる〉と思えない、信じられないという方が真理を知っておられ、この方にさえついて行けば良いのだ、と思いました。

救われた喜びと感謝にあふれて。イエス様を伝える人生は幸せです！

私は自分が救われた時のことを思うと、牧師先生、劇を演じてくれた仲間、その教会に本当に感謝しています。そして今度は自分が救いを伝えていく者とされたという祝福にあずかって、本当に幸せでたまらないんです。聖書の言葉に

「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」（ガラテヤの信徒への手紙2章20節）

とあります。神様は私の思いをはるかに超えて導いてくださる方で、神様と生きる人生は一番の冒険で、すごく面白いです。

二〇一八年には、牧師となる按手礼を受けました。私が皆さんにお伝えしたいのは、イエス様はあなたが生まれる前からあなたを愛しておられ、あなたが永遠の喜びの中で生きることを望んでおられる、ということです。たとえ自分で自分が嫌になる時も、イエス様の愛は変わりません。イエス様をぜひ知ってほしい、そして、神様の惜しみない豊かな祝福を受けていただきたいと思います。

イエス様を伝える時、私は聞いている人が信じるかどうかということまで問いかけるんです。クリスチャンの仲間からも「それ、言い過ぎだよ」と言われることがあります（笑）。変な人って思われても、イエス様による救いは本当に大事なこと、一番の宝物で、伝えたいことだから、問いかけます。だいたい半数の人は、信じる、と受け入れてくれます。信じるか信じないかを選ぶのはその人なので、私が気遣いしすぎて、信じるチャンスを阻んだらいけないと思うんです。私はただただ、神様からすばらしいプレゼントがあなたに届けられている、ということを説明します。神様が本当に受け取ってほしいと願っておられる、イエス様のことを。私は今、そのために生きていると思っています。

5月にオンラインでおこなわれた救世軍の青少年のための集会にゲスト参加し、若い人たちに救いの喜びを伝えた

ころがありました。それで、どうやったら成功できるかといういろいろなハウツー本を読みました。でも、そうかと思って試してみても、さっぱり続かない。I can do it と思いたいけれど思えない。その葛藤の中で、何のために金メダルを目指すのかと考えると、みんなが喜ぶからと思うけれど、それでも何かこう、空しいんです。

そんな時に、韓国で唯一入る日本のテレビ局の番組で、一人のクリスチャンの方が映りました。その方は聖書の中に、戦争孤児になった外国の男の子の新聞記事を挟んでいて、毎日聖書を開く度にその子のために祈っていたんです。知らない子のために祈る姿に本当に感動しました。それに、韓国ではよく駅前で路傍伝道をしている若者たちがいたのですが、その姿にも感動したんです。自分のためではなく、みんなのために、神様のことを伝えたいという思いでやっている。そういう生き方を見て、感動していました。

その年の十二月から私のコーチになったのが、一緒に練習したこともある韓国の方で、兵役がちょうど終わった、まだ若い人でした。私のコーチになったとしても短い期間のことなので、その後はどうするのか聞くと、貧しい国に行って子どもたちにテコンドーの技術を教えたいと言うんです。その思いもまた、すばらしいと思いました。

練習は長時間になることもあり、とても厳しかったのですが、ある日、コーチが「今日は帰る」と言うんです。驚いて理由を聞くと「教会で劇の練習があるから」と。何の役かと聞くと、「神様の役」。コーチは「天のお父さん（神様）の心をどうやって演じよう」と本気で言っていました。今は何の違和感もありませんが、その時の私は何も信じていない時でしたから、なんか面白いなあと思っていました。

その劇の上演が二十四日の日曜日で、クリスマスに教会っていいなと軽い気持ちで見に行きました。コーチが神様役で、そしてイエス様が出てくる。コーチを最初見た時は笑ってしまいましたが、それから、イエス様を迫害する人たちが出てくる。その姿はサタンに踊らされているようで、それを見て、本当に人間ってそうだなあと思いながら、なぜか涙が出たんです。イエス様はすばらしい働きをなさって、出会う人たちみんなに喜ばれ感謝されているのに、最後には十字架にかけられて死んでしまう。そして神様のところに帰って行かれるというのを見て、涙が止まりませんでした。

劇が終わって食事の時、牧師先生が来られて「信じますか」と聞かれました。私は、「神様はいると思うし、信じます。でもイエス様は信じないです」と、答えました。自分とは関係ないことだと思っていたので。すると牧師先生が「あなたが神様と幸せに暮らしているんだったら、なぜイエス様は、わざわざこの地にいらっしゃって、十字架にかかられたの？」と言われました。その時、イエス様が十字架にかかられたのは私が生まれるずっと前のことだけれど、私のため、私の罪のための出来事だったのだ、とわかりました。そして今ここでイエス様が、この会話を聞いておられるというのもわかって、もう何も言えなくなりました。こんな傲慢に「私はイエス様は信じない」と言う者だけれど、私が信じることをイエス様が望んでおられるなら、それでもう、良いのかなって思いました。それで牧師先生に「信じていいんですか」と。それが精一杯の答えでした。「そのためにイエス様は来られたんです」と言われ、信じることができました。牧師先生の後について信仰告白のお祈りをして「アーメン」と言った時に、〈救われた〉と思ったんです。今まで探していたのが、すべてイエス様、この方が答えだった。もう探す必要がない。私は真理とかわからないけれど、